

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

東京都 板橋区立高島第二中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

- 期 日 : 平成30年7月9日 (月)
- ク ラ ス : 2年1組 (38名)、2年3組 (37名)
- オリンピアン : 宮下 純一 先生 (水泳・競泳)



■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、2年後には東京オリンピックが開催されることから、今日の授業を通じてオリンピックを身近に感じてもらうと共に、オリンピアンはどのようなことを経験しながらオリンピックを目指したのか等について、伝えていきたいと授業の目的を説明。準備体操の後、タッチ鬼を2回実施。ルールをしっかりと把握し、それに応じた効果的な作戦を立ててほしい、言葉で伝え合い、共有することが大切であると伝えた。

2. 準備体操



3. 主運動



・大縄跳び (90秒間×3回) 2班毎3チームでの対抗戦。ルール : 全員跳び、8の字跳びから選ぶ。全員跳びは跳んだ回数と中に入れて跳んだ人の人数を掛けた数を、8の字跳びは跳んだ回数を得点とする。引っ掛かったら0から数え直し、終了の合図が鳴った時 (またはその直前) に跳んでいた得点を発表する。2回の合計得点が多い上位2チームが一発勝負の決勝 (3回目) に進むこととして実施。

4. まとめ



・1位 (金メダル) 2位 (銀メダル) 3位 (銅メダル) をそれぞれ称え、良いアイデアを思いついても、言葉で皆に伝えなければ意味がなく、皆が1つの方向に意思を統一してチームがまとまることができていたら、もっと良い結果が出ていたかもしれない、自分の意見を周囲に発信することの大切さを改めて伝えた。
・次の座学の時間には皆に質問することもあるが、その際は恥ずかしくらずに手を挙げ、沢山意見を出してほしいと伝え、全員で拍手を送り合い、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・北京大会時の年齢や見ていた記憶があるかを質問した後、オリンピック出場を決めた大会の映像を紹介。それぞれがオリンピックとの関わり方を考えてほしい。宮下先生はオリンピックは出場したいという思いで向き合ってきたが、その中で感じることできた3つのオリンピックの価値について説明。エクセレンス：「できなかったことができるようになる」。フレンドシップ：「友情」。リスペクト：「敬意/尊重」。オリンピックバリューはオリンピック選手だけのものではなく、皆の日常生活や学校生活、部活動の中で、両親や先生、友人、先輩・後輩に対しても感じるができる、と伝えた。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：日常生活の中でオリンピックバリューを感じられる場面を考えてみよう。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）

エクセレンス：「過去の自分の結果に勝てるように努力する」「上位の選手の動画を見たり走り込みをしたことで走り幅跳びで2位に入ることができた」等。

フレンドシップ：「同じグループのメンバーが選抜された時、悔しかつけど嬉しかった」「自分が試合でミスした時に皆が声を掛けてくれた」等。

リスペクト：「憧れている選手のプレーを真似た」「相手に差をつけられたが、必死で練習し、その後の大会で何とか上回ることができた」等。

4. まとめ



・東京でオリンピックが開催されるが、順位ばかりを気にするのではなく、出場している選手、自分が応援したい選手は、オリンピックバリューについて、どのようなことを積み重ねて頑張ってきたのか等、その想いを感じながら(注意しながら)見るとオリンピックに対しての想いが変わってくる。オリンピックは一人の力では成功しない。皆がオリンピックを成功させたい、盛り上げたいという気持ちがないと成功しない。オリンピックバリューを忘れずに、自分の日常生活において、どんな場面で3つを感じるかを大事にしながら、オリンピックを盛り上げてくれる人が一人でも増えることを祈っていると伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日：平成30年7月9日（月）
- ク ラ ス：2年2組（37名）
- オリンピアン：内田 翔 先生（水泳・競泳）



■授業のながれ：運動の時間（5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、内田先生がオリンピックで学んだことを伝えたいと授業の目的を説明し、元気があれば何でもできるので、運動の時間は暑さに負けず、元気に思い切り身体を動かして楽しんでほしい。ホワイトボードに掲示したオリンピックバリューのパネルを示しながら、詳しくは座学の時間で話すが、「こういうことなのかな」と想像しながら運動の時間に臨むこと、内田先生の話に対して反応すること、授業を楽しむことを約束して、準備体操に移る。
- ・準備体操として、じゃんけん勝ち抜きを2回実施。ルールをしっかりと把握し、その範囲の中で効果的な作戦を考えることの大切さを伝える。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班対抗でボール送りリレーを4回実施。ステージ前に縦1列に並び、ボールを両手で持ち指定された方法で後ろの人にボールを手渡する（左右、頭上・股下）。折り返し地点を回って一番早くゴールし、全員が座った班の勝利とする。2回目以降、ボールを落としてしまった場合、受け渡しをミスした2人がその場で腕立て伏せ（男子4回、女子2回）のルールを追加。4回目はボールを2個にして実施。

4. まとめ



- ・内田先生から適宜「前回の自分たちを超えよう」と生徒に声を掛けながら実施した。
- ・お互いの頑張りクラス全員で拍手を送り合った後、冒頭で紹介したオリンピックバリューの3つの言葉（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）について、この後の座学の時間で学んでいこうと予告し、また、熱中症防止のため水分をしっかり補給するように伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・内田先生がオリンピックで学んだことを踏まえて、皆はオリンピックバリューをどのように活かせばよいか考えてほしいと授業の目的を伝える。
- ・エクセレンス「貫く心」、フレンドシップ「(心)の友情」、リスペクト「ライバルへの称賛」について、粘り強く最善を尽くすことの大切さ、友情の大切さ、相手を称える大切さを話し、また利他の心を持ち、友達が困っている時に手を差し伸べられるような人になろうと伝えた。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 個人ワーク発問：目標や夢を達成するためには今後どのように取り組むべきか考えてみよう。
 グループワーク発問：日常生活をより充実したものにするためにオリンピックバリューをどのように活かしたらよいか考えてみよう。
 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）
 エクセレンス：「やると決めたことは最後までやり遂げる」「何事も積極的に取り組む」「諦めない心を持つ」等。
 フレンドシップ：「友人が困っていたら助ける」「皆で協力しながら団結して取り組む」「お互いに高めあう」等。
 リスペクト：「ライバルを超えられるように努力する」「他人が素晴らしいことをしていたら拍手する」等。

4. まとめ



- ・人の心を動かすことは皆にもできること。自分を信じ、下を向かず胸を張って一步を踏み出してほしい。その一步を踏み出すか踏み出さないかは自分次第。自分を信じていることができるのは自分だけである。やるかやらないかは自分で決めることであり、迷った時こそ大胆に、逆に調子の良い時は慎重に行動してほしい。これから先、色々なことがあると思うが、自分たちもできるんだという気持ちで生活してほしい。最後に「人生に夢があるのではなく夢が人生をつくる」という言葉を送る。夢が皆の人生を作るため、自分を信じて、まずは夢を持ってほしい。このクラスで高みを目指し、これから先、辛いこともあるかもしれないが自分を信じて頑張ってもらいたいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組





■ 集合写真

2年3組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



■ 修了書贈呈

